

科目名称	経営学					ビジネス・キャリア	(○)	オフィス情報	(必)
英文科目名称	Business Administration					グローバル・コミュニケーション	()	医療事務・医療秘書	(○)
科目コード	531190	授業形態	講義	単位数	2	ホテル・観光	(○)	大学編入	(○)
教員氏名	出山 実		年次配当	1 年次	後期				
実務経験教員担当	有 ・ (無)		アクティブラーニング			(有) ・ 無			
授 業 概 要 及 び 授 業 方 法	<p>本講義では、持続可能性（SDGs）が求められている現代における経営学のあり方を学習する。そこで、本講義では、次のような問いをもって講義を進めていくことにする。①持続可能性のような複雑な課題にどのように向き合うのか？、②持続可能性が求める個々人の基本的なニーズとは何か？、③持続可能性が求める基本的な原理・原則とは何か？、④持続可能性に資する基本的な経営学の基礎理論とは？、⑤持続可能性に向けたビジネスモデルの作り方は？である。持続可能性の課題は多くの場合、正解があるものではなく、対話をしながら模索していくものである。そこで、本講義では、対話の方法論についても随時学んでいくことにする。</p> <p>講義の方法は、教員による基本的な知識の教授をベースとして、受講生の方々には対話型のアクティブラーニング方式を取り入れた多様な学びを展開したいと考えている。</p>								
関 連 す る 科 目						卒業認定(学習成果)との関連	①, ②, ③, ⑥		
授 業 計 画	<p>1. オリエンテーション（対話の方法論）</p> <p>2. 複雑な課題への向き合い方</p> <p>3. 持続可能性と経営学①（人間の基本的ニーズ）</p> <p>4. 持続可能性と経営学②（自然原則）</p> <p>5. 持続可能性と経営学③（社会原則）</p> <p>6. 持続可能性と経営学④（商品・製品のライフサイクルアセスメント）</p> <p>7. 持続可能性と経営学⑤（マーケティング）</p> <p>8. 持続可能性と経営学⑥（組織・生産管理）</p> <p>9. 持続可能性と経営学⑦（会計）</p> <p>10. 持続可能性と経営学⑧（企業倫理）</p> <p>11. 持続可能性とビジネスモデルキャンパス①（基礎理論）</p> <p>12. 持続可能性とビジネスモデルキャンパス②（事例検討）</p> <p>13. 持続可能性とビジネスモデルキャンパス③（事例検討）</p> <p>14. 持続可能性に向けたビジネスモデルキャンパスを作成する①（グループ学習、対話形式）</p> <p>15. 持続可能性に向けたビジネスモデルキャンパスを作成する②（グループ学習、対話形式）</p>								
授 業 時 間 外 の 学 習	講義内容に関する予習（事前の調べ学習）と復習（振り返りシートの記入など）を課す（1時間程度）。								
授 業 の 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能性と経営学の基礎的な知識を理解することができる。 ・企業の活動を俯瞰して、ビジネスモデルとして捉えることができる。 ・持続可能性に向けたビジネスをしていく上で、原理原則に基づいて、必要となる改善案やビジネスアイデアを生み出すことができる。 ・対話の基本的なスキルを理解している。 								
課 題 に 対 す る フ ィ ー ド バ ッ ク	課題発表に対するフィードバックと試験終了後解説を行う。					評価方法・基準	期末試験（50％）、参加度と課題発表（50％）		
テ キ ス ト	講義時にプリントを配付する。								
参 考 書	特になし								
備 考									